

今後の自然教室の方向性等について（中間報告）

概要版

- | | | | |
|---------------------|-------|----------------------|-------|
| 01 背景及び経緯&自然教室の実施状況 | 本編 1頁 | 05 他施設の活用 | 本編24頁 |
| 02 八ヶ岳少年自然の家の状況 | 本編 6頁 | 06 持続可能な実施手法の検討 | 本編32頁 |
| 03 現地での再編整備 | 本編18頁 | 07 今後の検討の方向性及びスケジュール | 本編37頁 |
| 04 富士見町内での移転整備 | 本編22頁 | | |

令和7年1月21日
川崎市教育委員会事務局

背景及び経緯

本編 1頁

- 本市では、小学校5年生及び中学校1年生に対し、八ヶ岳少年自然の家を利用して2泊3日で自然教室を実施
- 八ヶ岳少年自然の家は施設及び設備の老朽化に伴い、R2年度から抜本的な老朽化対策の検討に着手したが、R4年度に敷地の一部が土砂災害特別警戒区域等※に指定されていることを確認
※「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（平成12年法律第57号）」に基づく指定
- 長期的な安全性の確保の観点から、「現地での再編整備」、「富士見町内での移転整備」、「他施設の活用」の3案について幅広に検討
⇒ R6年度末に中間報告、R7年度末に検討結果取りまとめ
- バス運転手の確保が困難になったことに起因し、R6年度分のバス手配が入札不調、一部の学校が日程や実施場所を変更

≫≫ 全市立小中学校での確実な実施に向け、持続可能な実施手法の検討がより一層必要

自然教室の実施状況

- 小学校は、5月下旬～7月中旬、8月下旬～11月上旬に、野外炊飯やキャンプファイヤー、星空観察、近隣の入笠山や鼻戸屋での登山等を実施
- 中学校は、4月～5月中旬（小学校と同様のプログラム）と1月～3月（スキー）に実施



八ヶ岳少年自然の家の状況

- S 52年、長野県諏訪郡富士見町に開設した敷地面積約36万㎡の青少年教育施設

八ヶ岳少年自然の家の利用状況

- 利用の約 8 割が自然教室、その他の利用は約 2 割
- 青少年団体の利用は新型コロナ前の水準に戻っているが、他はH29年度と比べて半減、グループ・家族及び日帰り利用は、R 2 年度から横ばい
- 青少年団体の月別の利用状況としては 8 月が最も多く、延べ利用団体数は、最も多い 8 月で 34 団体
- 自然教室を除く月別の宿泊室稼働率は、8 月が最も多く 39.6%

【八ヶ岳少年自然の家 延べ利用者数】

(単位 人)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
学校団体	73,799	74,172	72,552	2,249	70,920	73,596	72,114
青少年団体	15,779	16,119	13,858	1,176	2,769	8,094	14,172
その他団体	2,818	2,298	2,232	214	620	878	955
グループ・家族	5,000	4,927	3,673	2,261	2,529	3,387	2,699
日帰り	755	905	506	243	304	313	306
総合計	98,151	98,421	92,821	6,143	77,142	86,268	90,246

【R5年度 青少年団体の月別の利用状況(予約ベース)】

(単位 上段:人、下段:団体)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実利用者数	97	200	13	1,344	1,449	329	199	65	625	434	373	424
延べ利用団体	5	6	1	17	34	8	3	2	10	8	10	11



【R5年度 八ヶ岳少年自然の家 月別宿泊室稼働率(予約ベース※自然教室以外の稼働率)】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
3.9	7.2	1.9	29.7	39.6	5.2	8.6	3.8	15.4	13.2	11.1	11.2	12.6

(単位 %)

施設の劣化状況等

- 築45年以上経過した木造建築物が多く、建物の構造躯体、内外装材等の老朽化が著しい。
- 設備機器は多くが耐用年数を超過しており、不具合が多い。
- 地中埋設管の劣化や浄化槽躯体の劣化による破損がある。
- バリアフリー未対応で、車椅子利用者等の利用に制限がある。
- 土砂災害に対してはソフト面の対応のみで、ハード面は未対応



≫≫ 抜本的な老朽化対策やバリアフリー化、土砂災害に対する安全対策が必要

R 5 年度までの検討状況

- 劣化調査の結果や土砂災害特別警戒区域等の指定状況を考慮し、改修ではなく新築して集約化
- イエローゾーンでの施設整備案は、長期的な安全性の確保に課題があるため、**レッドゾーン・イエローゾーン以外での施設整備案**を詳細に検討 (R 6.2月文教委員会報告)

※土砂災害特別警戒区域をレッドゾーン、
土砂災害警戒区域をイエローゾーンという。

レッドゾーン・イエローゾーン以外での施設整備案

配置の考え方

- 敷地内でレッドゾーン・イエローゾーンに該当しないアストロハウス付近に宿泊棟等の建物を集約して配置
- 野外炊飯場とバーベキュー場は大規模改修し継続利用

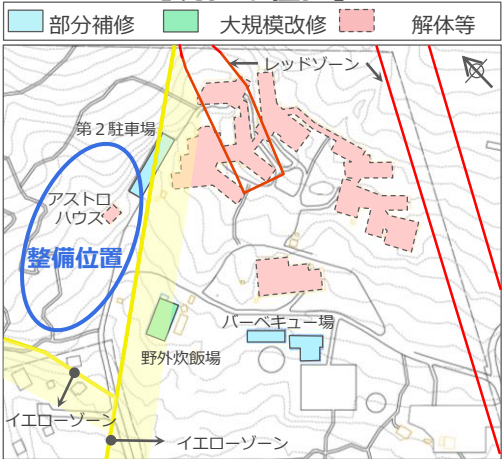
整備内容

- 利用状況等を考慮し、宿泊定員を530名から480名に削減、規模の適正化を図る。
- 民間利用等も考慮し、利用者ニーズの高い体育館を新たに整備、合宿利用等も可能にする。
- 宿泊棟、管理・宿泊棟、体育館を集約し効率的に配置、延床面積を約8.6%削減

概算工事費

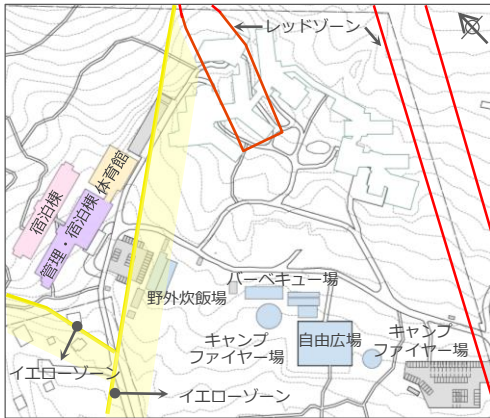
- 宿泊棟、管理・宿泊棟、体育館→ 新築
 - 野外炊飯場、バーベキュー場 → 改修
- 概算工事費 約72億円見込
※ R 6.10月時点

【現在の位置】



名称	延床面積
宿泊棟（4棟）	約5,833㎡
センターハウス・食堂北岳	約2,143㎡
ワーキングホール	約883㎡
アストロハウス、野外炊飯場・バーベキュー場、渡り廊下等	約2,141㎡
延床面積 合計	約11,000㎡

【レッドゾーン・イエローゾーン以外での施設整備案】



名称	延床面積
宿泊棟、 宿泊・管理棟	約7,795㎡
体育館	約965㎡
野外炊飯場、 バーベキュー場等	約1,295㎡
延床面積 合計	約10,055㎡

レッドゾーン・イエローゾーンを避けた施設整備可能、ただし野外活動エリアはイエローゾーン内

候補地の検討

- 八ヶ岳山麓付近 6 件の候補地のうち、
候補地 3 で移転の可能性を確認
- 候補地 3 はH 24年まで宿泊施設として
利用、現在閉鎖、建物存置

候補地 3 での移転整備案

配置の考え方

- 既存の宿泊施設等は規模や老朽化状況等を考慮すると継続利用
が困難なため、解体し新施設を整備
- 敷地に高低差があることから、標高が高い前面道路側に管理
棟・宿泊棟等を、標高が低い敷地奥側に野外活動エリアを配置

整備内容

- 現地での再編整備で検討した施設規模を基本とし、3 棟の宿泊
棟、体育館等を効率的に配置、延床面積を約10.5%削減
- 既存のテニスコートは運動場に改修

概算工事費

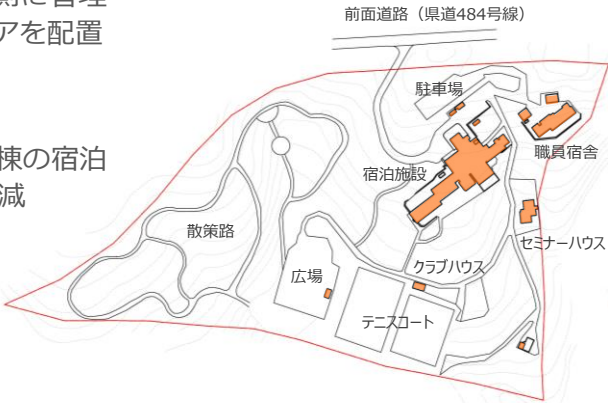
- 建物 → 新設
- テニスコート等の屋外施設 → 改修

概算工事費 約68億円見込（土地取得経費等除く。）
※ R 6.10月時点

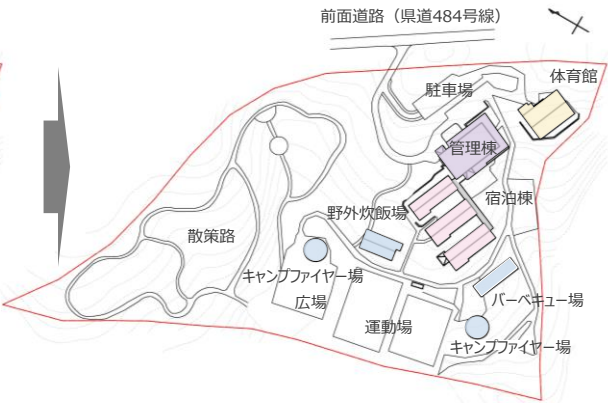
番号	所有者 (R6.11時点)	名称	面積 (ha)	敷地内	隣接	建物	判定	判定理由
1	財産区、 富士見高原 保健地管理(株)	立場総合グラウンド	5.35		急傾斜地 R・Y		×	・別荘地に隣接
2	富士見高原 リゾート(株)	元藤村学園	3.29			有	×	・敷地が狭い。
3	厚生労働省	元ヒルサイドホテル 富士見	8.49			有	○	・敷地に一定の広さあり。 ・施設整備・野外活動が可能
4	富士見町		20.94	敷地一部 土石流 R・Y	急傾斜地 Y		×	・レッドゾーン・イエロー ゾーン含む。
5	東京都		45.17				×	・未整備地のため、大規模開 発が必要
6	所有者の意向に より非公表			敷地一部 急傾斜 Y	急傾斜地 Y		×	・敷地が狭い。 ・イエローゾーン含む。

(R レッドゾーン、Y イエローゾーン)

【現在の位置】



【候補地 3 での施設整備案】



➤➤➤ 現在より敷地面積大幅減だが必要施設の整備可能 ⇒ 他の案とのコスト比較が必要

バス入札不調に伴う他施設での実施

- 運転手確保が困難なことに起因し、R6年度の自然教室バス入札が不調
- 小学校7校が当初の日程変更
- 小学校2校、中学校1校が日程及び実施場所を変更

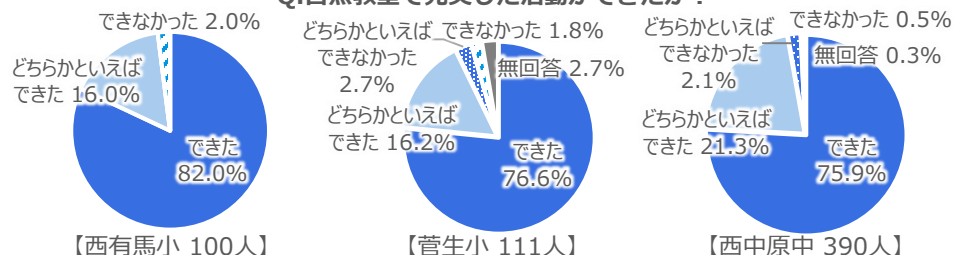
【他施設で実施した学校】

学校名	日程	実施場所
西有馬小	7/7 ~ 7/9	神奈川県立足柄ふれあいの村
菅生小	7/16~7/18	神奈川県立愛川ふれあいの村
西中原中	6/16~6/18	富士緑の休暇村

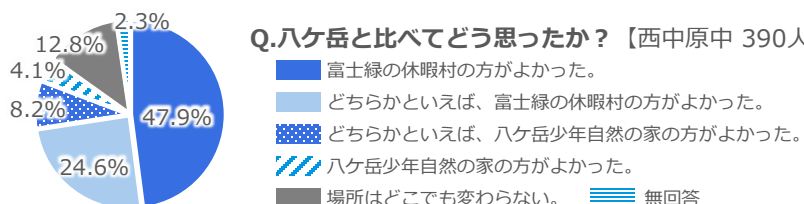


児童生徒へのアンケート結果

Q.自然教室で充実した活動ができたか？



Q.ハケ岳と比べてどう思ったか？【西中原中 390人】



教員へのヒアリング結果

移動時間が短いことによるメリット

- 活動時間をより確保できる。
- バス酔いが少ないなど、児童生徒の不安解消につながる。
- 体調不良時の保護者引取時間の短縮など、迅速な対応が可能

初めて利用する施設であることによるデメリット（教員の負担）

- 短期間で何度も現地へ下見に行くなど、負担が大きかった。 ※事務局での実地踏査は1回のみ
- ハケ岳は施設側がきめ細やかな対応をしてくれるが、雨など活動プログラムが変更となった場合の事務手続など、対応に苦慮
↓ 一方、西中原中は添乗員が当日同行
- 添乗員のおかげで、体験活動の段取りや食物アレルギー対応、病院受診がスムーズに行えるなど、教員の負担軽減が図られた。

R 7 年度他施設の活用について

- 約30か所の施設を視察し候補施設を選定、次のコンセプトで、八ヶ岳少年自然の家を含む複数の施設から希望選択制により実施
- R 6 年度の検証結果を踏まえ、他施設で実施する場合は、3回の実地踏査や添乗員の同行等、教員の負担軽減策を講じる。

Concept / 選べる！チョイス！自然教室！

子どもたちがより楽しめる、より学べる自然教室に向けて、
様々な時期&場所から学校ごとに選べるようにする！



小学校用カタログ集

小学校 R 7 年度他施設実施校

19校

施設名	学校名
神奈川県立愛川ふれあいの村	百合丘小、南百合丘小
三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ	川中島小、御幸小、東小倉小、 末長小、登戸小、東柿生小
南房総市大房岬自然の家	四谷小、川崎小、京町小、 新小倉小、久地小
本栖湖スポーツセンター	向小、下作延小、西梶ヶ谷小、 西菅小、三田小
横浜市少年自然の家 赤城林間学園	下沼部小

中学校 R 7 年度他施設実施校

16校

施設名	学校名
湯沢東映ホテル	大師中 ※新幹線利用
八子ヶ峰ホテル	西高津中、有馬中、稲田中、南生田中
亀屋ホテル	南河原中、平中、南菅中
富士緑の休暇村	中原中、西中原中(春実施)、宮崎中、 宮前平中、菅生中、金程中
ホテルサンバード	今井中
南房総市大房岬自然の家	附属中(春実施)

➤➤➤ R 7 年度他施設実施校の実施結果を踏まえ、他施設での全校実施が可能か判断

民間活用による他施設での持続可能な実施手法の検討

- 民間事業者と全校他施設での実施可能性や持続可能な実施手法などを検討
- コスト増となるものの、**教員の負担軽減**につながる行程作成や当日の添乗業務可能
- 民間事業者の意見を踏まえ、全校での他施設実施は**3年を目途**に段階的な移行を想定

➤➤➤ **R 8 年度事前準備** (宿泊先の予約等) の実施結果を踏まえ、
他施設での全校実施が可能か判断

3つの検討案 コスト比較

- 年間ランニングコストはかかるものの、市で施設を保有した場合のコストと比較すると、**他施設**の活用が最も効率的

市で施設を保有した場合のコスト		
施設整備費 A ※R6.10月時点	施設修繕料 B (60年分)	年間コスト② (A+B)/60
約72億円	約22億円	約1.6億円
約68億円 +土地取得経費等	約22億円	約1.5億円 +α

検討案	年間総コスト ①+②
現地での再編整備	約7.7億円
富士見町内での 移転整備 (候補地 3)	約7.6億円 +α
他施設の活用	約6.8億円

自然教室運営費 (年間)	指定管理料 (年間)	年間ランニング コスト①
約3.5億円	約2.6億円	約6.1億円
約3.5億円	約2.6億円	約6.1億円
約6.8億円	—	約6.8億円

他施設移行想定スケジュール

※民間事業者との意見交換等より

- 他施設での全校実施にはおおむね 1 ～ 3 年の準備期間が必要
- バスの早期確保や前年度中の施設予約の必要性
⇒複数年での契約が望ましい。
- 学校数も多く、学校と施設とのマッチングに時間が必要
⇒段階的に移行することが望ましい。

R7	R8	R9	R10
R7当日対応			全校他施設実施
R8事前準備	R8当日対応	段階的に移行	
小学校19校 中学校16校	R9事前準備	R9当日対応	
		R10事前準備	R10当日対応



今後の検討の方向性

本編37頁

3つの検討案 まとめ

検討案	検討結果
現地での再編整備	● アストロハウス付近での施設整備案は、レッドゾーン・イエローゾーンを避けた施設整備が可能だが、野外活動エリアはイエローゾーン内となる。 ⇒長期的な安全性の確保という課題を払しょくできない。 ● 他施設の活用と比較して、費用負担増
富士見町内での移転整備	● 候補地3での移転整備案なら必要施設の整備が可能 ● 他施設の活用と比較して、費用負担増（建設費用プラス土地取得経費等）
他施設の活用	● R6年度他施設実施校の結果から、自然教室の目的達成可&メリット有 ⇒教員の負担については、軽減策を講じた上でR7年度実施
持続可能な実施手法の検討	● 3年間の移行期間を設ければ、他施設での全校実施が可能（見込み） ● 他施設での全校実施が確実に可能か更なる検討が必要

- 現地での再編整備及び富士見町内での移転整備は、安全性やコスト比較の観点から**一旦検討を凍結し、他施設の活用を前提**に検討を進める。
- R7年度は、他施設実施校の当日対応及びR8年度実施分の事前準備の検証
- **3年間を目途**に、持続可能な実施手法の確立に向けた検証に取り組む。
- これらの検証結果によって、八ヶ岳少年自然の家は地形的な課題や利用状況等を踏まえ、今後、**施設の存廃を含めた検討**

➤➤➤ **今後の取組** R7年度末に「今後の自然教室の方向性」等を取りまとめる。